

第 16 回 C L A 関東支部ビジョンセミナー
『～公園処方箋の最新動向～』
開催報告

- 日 時 : 平成 27 年 7 月 30 日 (木) 14 : 00～16 : 15
- 会 場 : 日比谷公園「緑と水の市民カレッジ」2 階
- 主 催 : (一社)ランドスケープコンサルタンツ協会 (CLA) 関東支部
- 共 催 : 公園管理運営士会 (QPA)
- 後 援 : (公財) 東京都公園協会
- 参加者 : 41 名 (CLA 会員 29 名、QPA 会員 9 名、非会員 3 名)

■ 趣 旨 :

平成 27 年 4 月米国で行われた都市公園の国際会議、平成 27 年 5 月に淡路島で開催された国際シンポジウム及び東京で行われた造園学会の全国大会などにおいて、「公園はすべての人々にとって心身のヘルシーライフが担保されたこれからの健康長寿社会の実現に最も効果的で不可欠な社会資本であること」「公園を地域創成の核・健康長寿社会の中核的イノベーターとして発展させていく」ことなどが真剣に議論されている。「Healthy Parks, Healthy People」と呼ばれる新たな動向は、米国などでは医者が患者に出す処方箋に公園を活用する取り組みとなっている。

今回のセミナーは、公園処方箋の最新動向を知るとともに、健康長寿社会の実現に資する都市公園の実現に向けた最新情報を共有することを目的として実施した。

■ プログラム

1 企画意図の説明および開会あいさつ

・CLA 技術委員兼 QPA 企画委員の小林新が、今回のセミナー開催にあたっての背景を説明し、講師の紹介を行った。

・CLA 技術委員長の萩野一彦より開会にあたってあいさつを行った。



2 講演

3名の講演者のお話の主な内容は次の通り。

1) デザインとマネジメントの連携

田代 順孝 氏

- ・ IFPRA が WUP に生まれかわった
- ・ CIPP の元祖はオルムステッドであり、井下清である
- ・ コンサルタントが現状行っている仕事の今後を考える際、パークマネジメントがカギとなる
- ・ パークインダストリーの重要性
- ・ 淡路での国際会議においても「デザイン・レガシー」の重要性が議論された
- ・ コンサルタントはパークマネジメントのプロモーターたれ
- ・ パークプロフェッショナルは「コミュニティ」「地域経済」「生態系」の Health を実現することが目標である
- ・ QPA と CIPP、パークインダストリー、PP の 12 の資質などについて



2) Healthy Parks, Healthy People とは

小野 隆 氏

- ・ オーストラリアでの HPHP の始まり。HPHP は公園管理するための組織ではなく、公園をとおして社会課題を解決するための組織をつくることとされた
- ・ アメリカにおける HPHP の取組の紹介。貧困や暴力の事情により、公園へ行けない子どもが多い。子どもたちの生活圏が非常に狭いため、公園を知らない、見たことがないという子どももいる。
- ・ サンフランシスコでは HPHP の活動が、年間予算の 15% に匹敵する 10 億ドルに影響を与える。
- ・ 健康にかかわる要因として「医療ファクター (10%)」「家系的要因 (30%)」「個人の習慣 (40%)」「社会的要因 (20%)」。我々の仕事は、個人の習慣に加え、社会的要因というあわせて 60% に関わる稀有な仕事である。
- ・ 米国・淡路島等での国際シンポジウムでの議論の様子などについて



3) 「大阪発、公園からの健康づくり」を「日本発」へ 竹田 和真 氏

- ・「超高齢社会と国民医療」「子どもの健康事情」という我が国の課題について
- ・平均寿命は延びたものの、女性で約 13 年、男性で約 10 年という不健康寿命が存在する。国民医療費も増大する。
- ・公園を活用したすこやか健康づくりとして、ニコニコペース理論のリサーチ結果について。「いつでも、だれでも取り組める」「生活習慣病にアプローチできる」「エビデンスがしっかりしている」ことが重要。
- ・ニコニコペース理論に基づいた運動プログラムの紹介（スロージョギング）
- ・普及啓発等の取組について
- ・今後の推進体制、取組の展開等について



4) 質疑応答

参加者からの質疑に対し講演者が回答した。

3 閉会

閉会にあたり GLA 会長枝吉茂種があいさつを行い、閉会した。



以上